

10代で異所性妊娠手術を施行した患者の 長期的な妊孕能に関する検討

10代で異所性妊娠手術を施行した患者の長期的な妊孕能に関する検討

〔研究目的〕

10代で異所性妊娠手術を施行した患者さんの長期的な妊孕能に関する検討を行います。異所性妊娠手術は術後に妊孕能低下を起こす可能性があることがわかっています。年齢が10代でも躊躇せずに手術しなければなりません。その後、生児を得たか、詳細な検討はされておらず分かっておりません。本検討により若年異所性妊娠の患者さんの長期的な妊孕能を解析することを目的とします。

〔研究意義〕

若年異所性妊娠患者の長期的な妊孕能改善の一役になることを目的とします。

〔対象・研究方法〕

当院で1994年1月～2022年4月に異所性妊娠の診断で手術療法を選択した654例を対象とします。うち10代患者の患者背景（年齢、経妊経産、異所性妊娠部位、血中hCG値、妊娠週数、クラミジア感染有無、性器出血の程度、腹腔内出血有無）、手術内容、手術時間・出血量、術後妊娠有無（挙児希望有無、自然妊娠・体外受精・異所性妊娠再発・追跡不明）を後方視的に調査します。

〔研究機関名〕 帝京大学ちば総合医療センター 産婦人科

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など患者さん個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんが特定できる個人情報は利用しません。患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。